

東京支部からお知らせ

東京支部長 江島正子 jam-tokyo-shibu@outlook.jp

日時 2021年4月25日(日) 10:00~11:30 Zoom 無料

研修テーマ 「幼児期の思い出と古生物学者の現在」

講演者 相場大佑(北海道三笠市立博物館主任研究員・博士)

日本モンテッソーリ協会東京支部では、幼児期の4年間を「聖アンナこどもの家」で過ごし、現在は北海道三笠市立博物館で主任研究員として活躍しておられる相場大佑博士(学術)をお招きして、Zoomでお話していただけることになりました。まったく偶然に私は2021年2月2日、13時7分、NHKチャンネル1で彼が「新しいアンモナイトを発見した」とテレビニュースで報道されているのを見ました。さらに、講演直前の4月16日付「朝日新聞」にはアンモナイトに関連して彼についても記事が掲載されていました。65名出席のZoom画面スタイルでの研修会は「今」を感じさせられ、前之園幸一郎先生、野村緑先生、三浦勢津子先生のご挨拶の言葉をいただき開始した相場研究員のお話には「モンテッソーリ教育と人間形成」で、はっきりとした赤い糸を感じ取れ、とても感動させられました。相場研究員は来年の日本モンテッソーリ協会(学会)第54回全国大会(北海道)で基調講演をなさるそうで、大変楽しみにして待っています。

#### ご挨拶

日本モンテッソーリ協会(会長(理事長)) 前之園幸一郎先生

アンモナイトの宝庫 北海道」(2021. 4. 16. 朝日新聞)の記事の中でらせん階段のような殻をしたアンモナイトを発見した研究者として相場さんが紹介されていました。

本日はご本人からの直接のお話が楽しみです。相場さんが幼児期の4年間をモンテッソーリ園の環境で過ごされたとうかがい私はモンテッソーリの言葉を思い浮かべました。発達は教えることはできない。それは子どもの内部に存在する「目に見えない先生(Il maestro invisibile)」の役割だとモンテッソーリは述べています。乳児が自分で歩き出すのも、言葉を発するようになるのも子どもの内部の自然が定めたプログラムによります。大人による先回り保育は発達の自然のプロセスを妨げてしまいます。相場さんはモンテッソーリ園の「整えられた環境」の中でのびやかに「目に見えない先生」に導かれて現在の個性的な人格を形成なさったのだと思います。私には相場さんがモンテッソーリの申し子であり、モンテッソーリ教育の成果の模範的な実例のように思えてなりません。

#### ご挨拶

東京国際モンテッソーリ教師トレーニングセンター 3~6歳 AMI公認 트레이ナー  
三浦勢津子先生

今日は相場先生のお話を伺えるということで大変楽しみにしております。私も自分が受け持たせていただいたお子様が高校生、大学生、そして大人となり、子どもの家に通っていた頃、どんな風感じていたのかと聞くことはとても楽しいことの一つです。

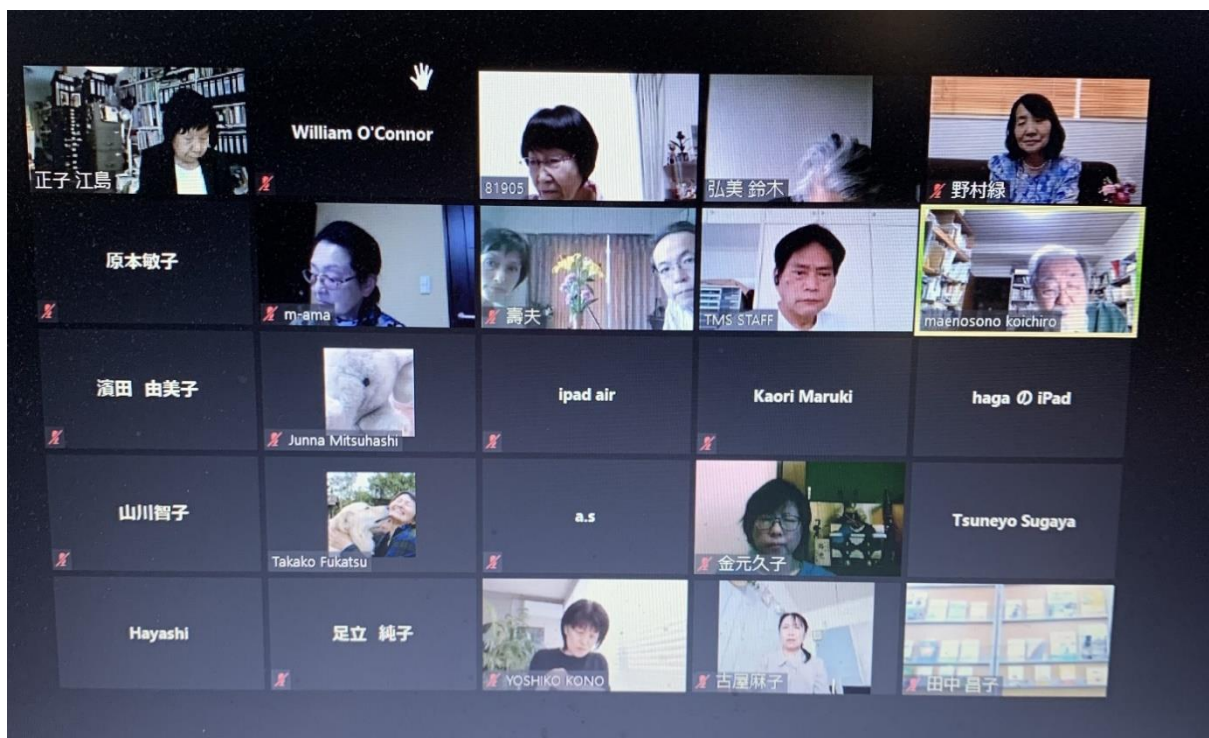
先日、学生に「吸収精神」の授業をしております、『子どもの精神—吸収する精神—』の中の「3歳以前には、機能の創造がおこなわれます。3歳以後には、創造された機能が発達します。二つの時期の境界は、ギリシア神話のレテ川、すなわち「忘却の川」のことを考えさせます。3歳以前に起こったことの記憶を呼び起こすのはとても難しいことです。」(マリア・モンテッソーリ著、中村勇訳、日本モンテッソーリ教育総合研究所、16章 無意識的な創造者から意識的な働き手へ、P187)ということについて、学生と話していました。聞いてみたところ、ほとんどの人の一番古い記憶は3歳から4歳でした。このようにして、大人になっても記憶に残っていらっしゃる幼児期のお話を聞けるのは3-6の教師の大きな喜びの一つです。今日は、相場先生の幼年期のお話、そして現在のご研究のお話を伺うことが大変楽しみでございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 相場大佑くんのご紹介

アンナこどもの家 園長 野村緑 先生

相場大佑くんは25年前に当園を卒園されました。大佑くんは25年前に当園を卒園されました。アンナには2歳8ヶ月で入園され、8月で満3歳になられました。2歳上のお姉さんがいらしたので、赤ちゃんの時からアンナには通っていました。アンナ時代の大佑くんの印象は、いつも目をキラキラ輝かせて、何かに夢中に取り組んでいた姿です。特に、手が器用で手を使っていれば、いつもハッピー。そんなお子さんでした。

エピソードを一つご紹介しましょう。運動会当日、突然いなくなる事件がありました。「大ちゃんがない」と気がついた私は、もしや誘拐？とドキドキしながら、まず彼のクラスに戻ってみました。そこには、机に向かい折り紙をしている姿がありました。まずは誘拐でないと安心し「大くん、終わったら戻るんだよ」と言った気がします。その朝、みんな運動会の前は嬉しくて浮足立っていました。その中で一人、机に向かい折り紙をしている大くんを私は目撃していました。彼は恐竜を折っていて、何回も立たせようとしていましたが、倒れてばかりいました。その後、集合が上がり、運動会が始まりました。入場行進の中で、彼はひらめいて「こうやったら立つかも」と試したくなって、クラスに戻ったのかもしれませんが。そんな一面をもつお子さんでした。当園では、卒園前に年長児たちは大昔の生物などを調べたり、博物館に遠足に行きます。その時の経験が彼の現在につながっているのかも知れません。大佑くんとの出会いに今も感謝しています。





講師 相場大佑氏 北海道三笠市立博物館主任研究員・学芸員（博士）

【専門】 古生物学（アンモナイト）

Daisuke Aiba Ph.D.

Mikasa City Museum, Chief Researcher/Curator